

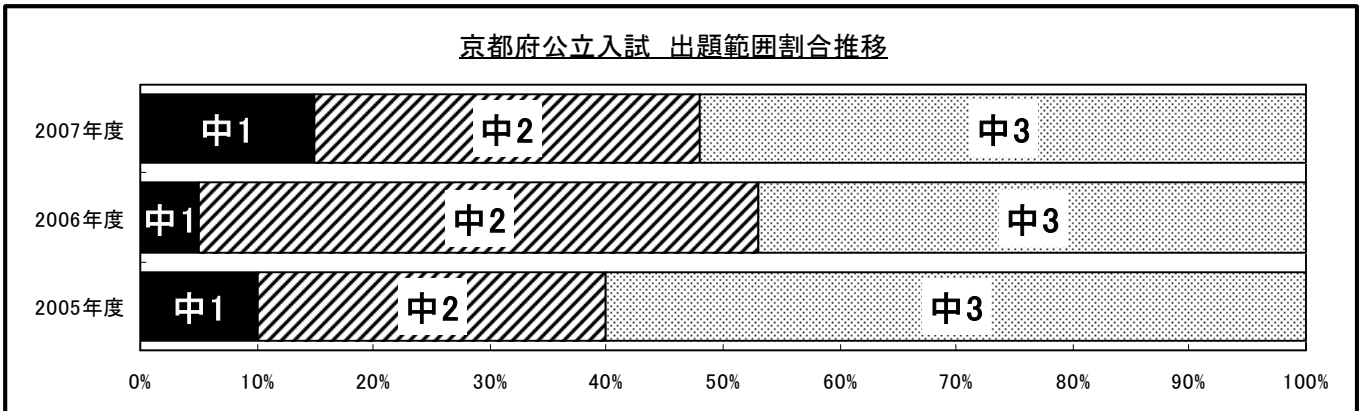
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	独立小問集合	独立小問集合	独立小問集合
2	確率	連立方程式	確率
3	空間図形	確率	立体図形 (積み木)
4	平面図形 (相似)	関数	1次関数
5	平面図形 (円, 相似, 三平方の定理)	平面図形 (合同, 相似)	相似
6	2次関数	空間図形	2次関数
7	規則性 (文字と式)	平面図形 (三平方の定理)	空間図形
8		規則性	

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
20問	20問	23問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→やや易化

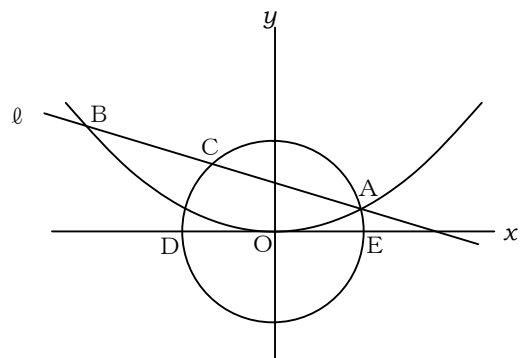
傾向	大問で7番までの量は昨年より少ないものの、やはり適切な処理能力が要求される。独立小問についても少しひねった問題が多く、計算ミスや考え違いのないようにしたい。確率は大問形式で毎年出題されている。ここ2年ほど出題されていた規則性の問題は、今年なりを潜めたが、全体的に関数、平面図形、空間図形等平均的に出題されており、幅広い知識が必要とされる。
対策	独立小問対策として、種々の計算問題はたくさんの量をこなし、特に基本問題よりも一ひねりした問題に対する処理能力が必要。図形の問題が多く、融合問題もでており、幅広い練習量が必要とされる。

5. 本年度入試の注目問題

6. 右の図のように、関数 $y=ax^2$ のグラフと直線 l が2点A, Bで交わっている。点Aの座標は (3, 1)、点Bのx座標は-6である。また、原点Oを中心とし、点Aを通る円の周上にある点C, D, Eのうち、点Cは直線 l と円との交点であり、2点D, Eはx軸上の点である。ただし、点Dのx座標は負であり、点Eのx座標は正である。

このとき、次の問い(1)~(3)に答えよ。

円と円周角, 2次関数,
三平方の定理の利用



- (1) a の値を求めよ。また、直線 l の式を求めよ。
- (2) 点Dの座標を求めよ。
- (3) $\widehat{AE} : \widehat{CD}$ を最も簡単な整数の比で表せ。ただし、 \widehat{AE} , \widehat{CD} に対する中心角はともに 180° 以下とする。

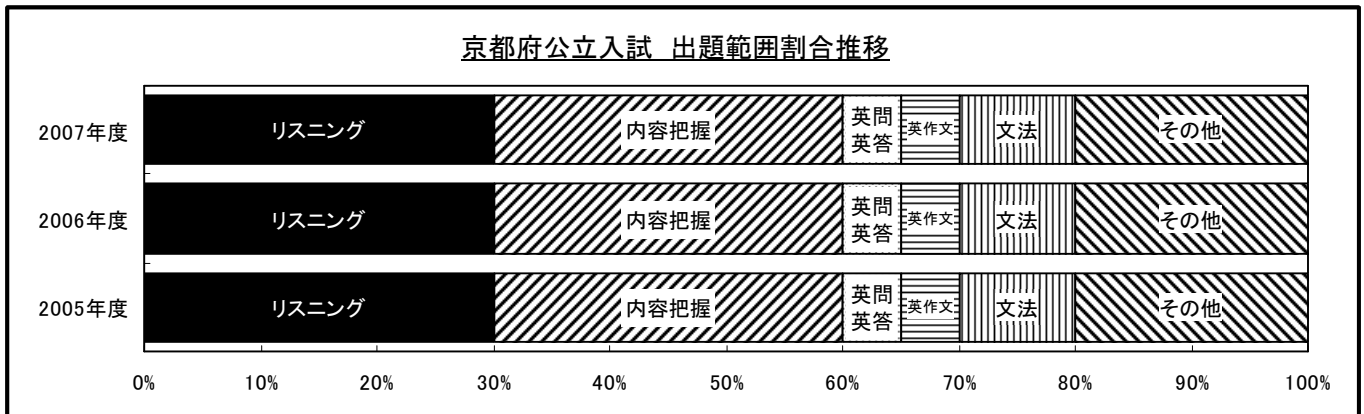
1. 大問別出題内容の変遷

	2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
1	リスニング	リスニング	リスニング
2	リスニング	リスニング	リスニング
3	リスニング	リスニング	リスニング
4	長文読解	長文読解	長文読解
5	対話文読解	対話文読解	対話文読解

2. 小問数の推移

2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
20問	20問	20問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	他府県と比較して問題数が少ないため、1問の失敗が大きく合否に響く可能性が高い。出題傾向としては選択問題がかなり多くなっていて、内容を考えて論述するというような問題は出題されない。また、読解問題の中にある語形変化や適語句的分選択の問題は非常に基本的なもののばかりの出題が多い。
対策	リスニングの比重が他府県に比べて高いので、公立高校受験者は必ずリスニング対策が必要になる。また、基本的とはいえ、読解問題の演習量が合否のカギの1つになる。出題形式は独特ではあるが、基礎学力・基礎知識の徹底が最優先事項である。

5. 本年度入試の注目問題

4	<p>長文読解問題の中の一部</p> <p>When I was in the sixth grade in elementary school, my father visited Japan and ① (buy) a book about Japan for me. It was ② (write) for foreign people.</p> <p>(1) 本文中の下線部①②を文意から考えて、それぞれ正しい形で書け。</p> <p>解答 ①bought : 過去の文 ②written : 受動態 (不規則変化の過去分詞)</p> <p>→ 超基本事項であり、ここで失点すると、高得点を望むことはできない。</p>
---	--

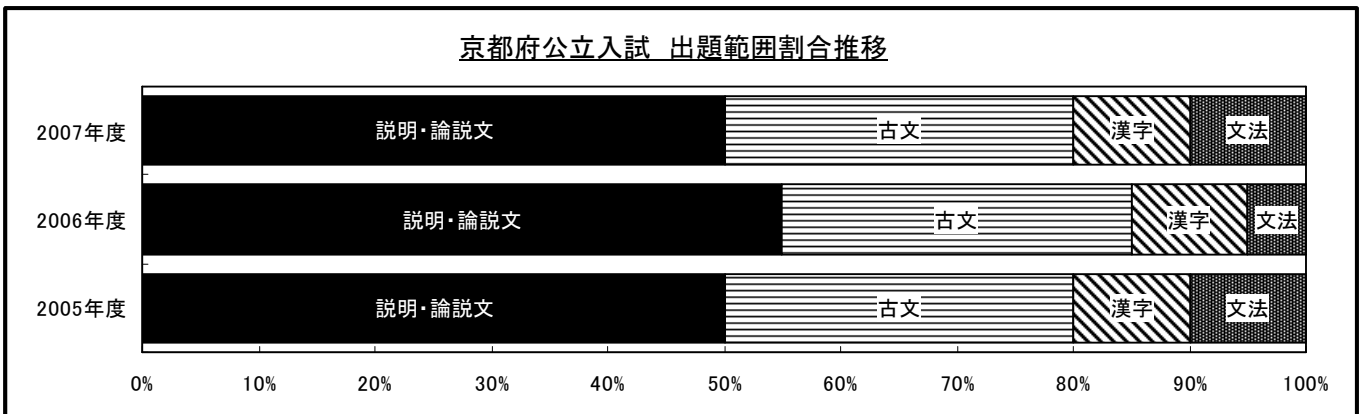
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	古文 (二条良基「筑波問答」)	古文 (「日本古典集成 与謝蕪村集」)	古文 (「閑居友」)
2	論説文 (三井秀樹「形之美とは何か」)	論説文 (海部陽介「人類がたどってきた道」)	論説文 (柏木博『「しきり」の文化論』)

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
23 問	25 問	23 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→例年通り

傾向	古文、論説文の大問2題の出題パターンが定着している。小問で本文の内容についての話し合いの問題がここ最近の出題として目立つ。論説文の文章も長くないので文脈をつかめば答えられる問題が多い。漢字・文法については、例年読み書き1題、文法も1・2題の出題しかないが幅広い内容で出題されている。
対策	文章読解 (特に論説文) では、文脈を正しく読み取る練習が必要。そのためには、段落ごとの要点をまとめ、段落相互のつながりをとらえる練習を普段からこころがけておく必要がある。文法問題も数問しかないが、幅広く出題されているので、中1～中3内容までの復習が必要。

5. 本年度入試の注目問題

次の会話は、本文をもとに行われた、ひとみさんとしげるさんの音読についての話し合いの一部である。これを読み、後の問い①・②に答えよ。

ひとみさん 古文に親しむには、音読すると、とても効果があるわね。

しげるさん そうだね。古文のリズムに慣れてくると、登場人物の心情や場面の展開を想像しやすくなるよね。

ひとみさん 音読で注意しなければならないことの一つは、歴史的仮名遣いを正しく読むことね。たとえば、本文中の「与へ給ひけり」を正しく音読すると、「A」となるわね。

しげるさん それから、意味の切れ目や会話文をしっかりと理解することも大切だよ。この本文には、会話文を示すかぎかつこの省略されているところが三か所あるから、ちょっと読みにくくなっているね。話が急転するのは、「飢れたる姿したる人」の二つ目の会話文だね。

ひとみさん そうそう、初めは「B」からで、終わりは「C」までの会話文ね。意味の切れ目や会話文に注意して、リズムに慣れることって大切ね。

① A に正しく音読されたものが入るように、「与へ給ひけり」の平仮名部分をすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書け。

② B・C には「飢れたる姿したる人」の二つ目の会話文の、初めと終わりの部分がそれぞれ入る。本文中の波線部 (---) のうち、B・C に入る最も適当なものを、次の(ア)～(カ)からそれぞれ一つずつ選んで記号で書け。

(ア) ここの (イ) さしあたりたる (ウ) 菩薩の
 (エ) さる事なし。 (オ) 小さし。 (カ) 受くべからず

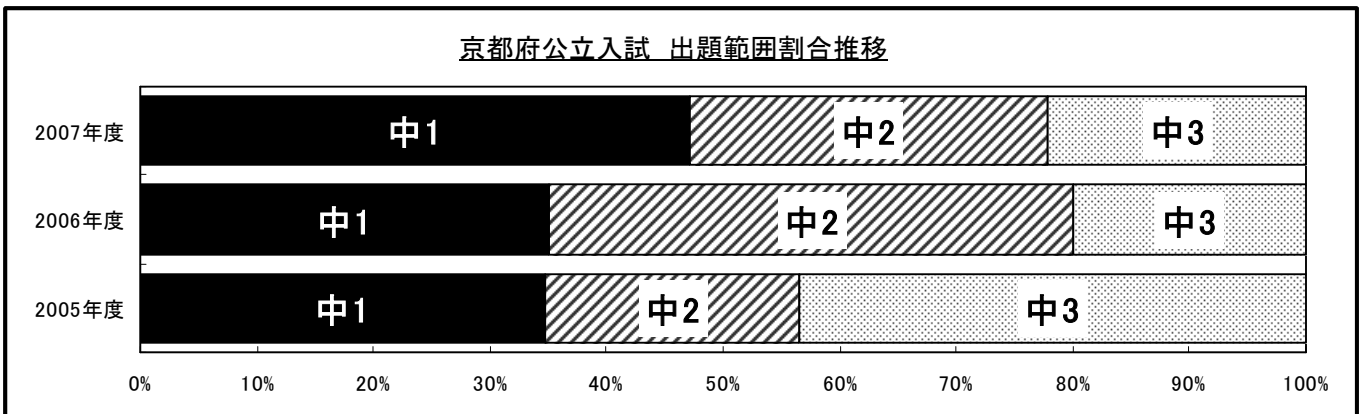
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
1	植物 (植物の種類・根茎葉のしくみ)	植物 (光合成)	植物 (顕微鏡・酸素・二酸化炭素)
2	生物のつながり (土中の微生物)	動物のなかま (セキツイ動物)	動物 (消化と吸収)
3	天気の変化 (前線)	地球と宇宙 (太陽・星の動き)	大地の変化 (地層・化石)
4	地球と宇宙 (太陽系)	天気の変化 (露点と湿度)	地球と宇宙 (星の運動)
5	力と圧力	気体の性質	状態変化
6	エネルギー	化学変化 (化学変化と質量)	物体の運動
7	化学変化 (炭酸水素ナトリウム)	光の性質 (レンズ)	化学変化 (化学反応式・分解)
8	化学変化 (水の電気分解)	電流 (オームの法則・直列・並列)	光の性質 (反射)

2. 小問数の推移

2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
24 問	20 問	26 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	<p>大問8問からなり、物理・生物・地学・化学から各2問ずつ出題されている。問題文が長く、記号選択式の問題と用語を答えさせる問題が多い。</p> <p>用語記述の問題では、漢字指定またはひらがな指定があり、用語の正しい漢字、正しい読みを日ごろから確認しておく必要がある。</p>
対策	<p>基礎・基本的な内容から出題されているため、教科書の内容を十分に理解しておく必要がある。</p> <p>実験・観察についての問題が多いので、実験の手順や操作の意味などを答えられるようにしておいたほうがよい。</p>

5. 本年度入試の注目問題

1. 水 30cm³ とエタノール 10cm³ を混ぜて混合物 (混合液) をつくり、その混合物と、水、エタノールを使って、次の実験を行った。

〈実験 I〉 混合物、水、エタノールを、それぞれ質量のわかっている 3 本のメスシリンダーに 10 cm³ ずつはかりとり、それぞれ電子てんびんにのせて質量を求める。

(1) 〈実験 I〉 で、混合物 10cm³ の質量を a g、水 10cm³ の質量を b g、エタノール 10cm³ の質量を c g としたとき、a、b、c の大小関係を式で表すとどのようになるか、右の表を参考にして、最も適当なものを、次の (ア) ~ (エ) から 1 つ選べ。

(ア) $b < a < c$ (イ) $b < c < a$ (ウ) $a < c < b$ (エ) $c < a < b$

	温度 20°C のときの 1cm ³ あたりの質量 [g]
水	1.00
エタノール	0.79

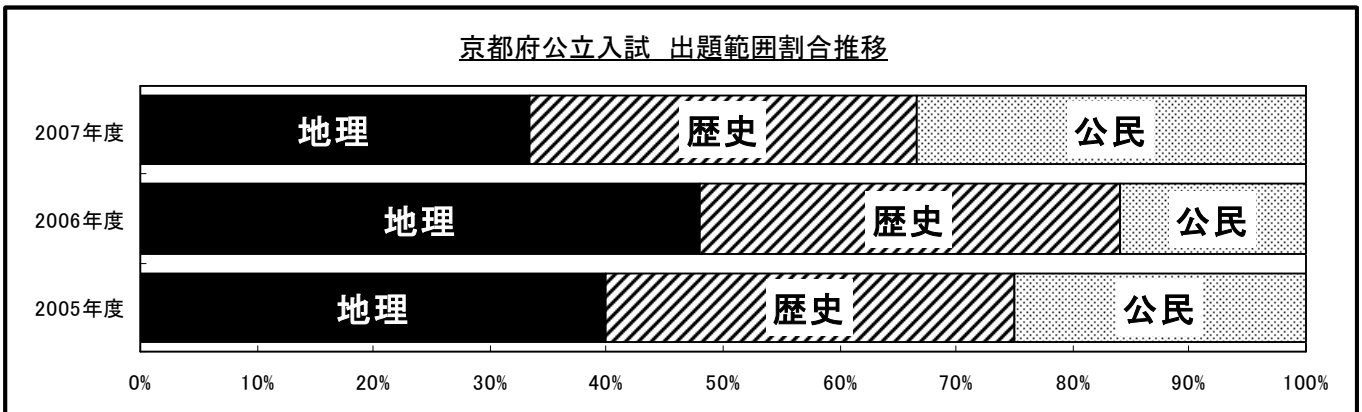
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
1	世界の国々・世界の地域構成	世界の地域構成・近代日本のあゆみ	世界の国々・近代日本のあゆみ
2	古代国家のあゆみ・武家政治の展開	武家政治の展開・近世社会の発展	身近な地域・古代国家のあゆみ
3	世界の国々・世界の地域構成	身近な地域・日本の産業・武家政治	日本の政治
4	身近な地域・日本の地域構成	日本のなりたち・国民生活と経済	

2. 小問数の推移

2005 (平成17) 年度	2006 (平成18) 年度	2007 (平成19) 年度
20 問	25 問	24 問

3. 出題割合の推移

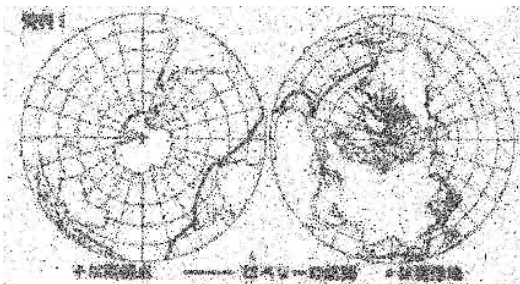


4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	大問3題構成で、いずれも地理・歴史・公民、3分野の融合問題となっている。すべて調べ学習を題材にした出題となっている。地理は昨年に続いて作図の問題が出題された。昨年と同様に地図に該当地域を示す問題。統計資料・地図を多く活用した出題となっている。歴史は絵や資料などを用いた出題が見られる。公民は政治分野が中心となっている。
対策	分野融合問題の出題となっている。それぞれの分野の基本的な知識の習得が必要。「身近な地域」の単元である地図読み取り問題についてはあらゆる方向からの対策が必要（地図記号や新旧地図の変化、縮尺など）。歴史は日本と世界のできごとの関連性は必ず理解しておく必要がある。公民資料読みとりにも慣れておく必要がある。

5. 本年度入試の注目問題

1. 次の資料1は、京太さんが、南半球および北半球の地図中に、ペリーが1853年に日本に来航した時の航路を調べて作成したものである。この航路に関連して述べた文として誤っているものはどれか、資料1を参考にして、(ア)～(エ)から1つ選べ。また、資料1中の南半球の地図で東経135度の線が通る大陸をすべて選び、答案用紙の地図中で、その大陸にあたる部分を黒く塗って示せ。



- (ア) ペリーは本初子午線をこえて日本に来た。
 (イ) ペリーは日付変更線をこえて日本に来た。
 (ウ) ペリーは最初に横断した大洋は（海洋）は大西洋だった。
 (エ) ペリーが最初に到達した大陸はアフリカ大陸だった。